

技術

平成の大修理では、伝統の技術がさまざまな箇所で作られました。屋根工事では檜皮(ひわだ)職人が竹釘を用い、檜皮で屋根を葺きました。社殿等の彩色では、膠(にかわ)と伝統的な顔料を中心に使用しました。木工事では、破損した部材を忠実に補修・再現しました。飾金具についても、使用できるものについては金箔を施し、取替が必要なものは忠実に再現しました。技術的に困難を極めたのは、本社本殿中央の板絵と、本殿両脇の扉絵の修復でした。剥落が激しかったこれらの絵も、技術者たちの努力により、あざやかに甦りました。



工事用の足場



檜皮を葺く



修復のため取り外された梶股



組み物部分の彩色



修復中の本殿扉絵



新たに箔押しした本殿扉の飾金具

泉大津市・桃山学院大学連携事業

泉穴師神社平成大修理完成記念企画展

甦る泉穴師神社

～平成大修理のすべて～



◆泉穴師神社

2017年4月29日(土祝)

10:00-11:30

〒595-0023 泉大津市豊中町 1-1-1

◆泉大津市立織編館ギャラリー

2017年4月29日(土祝)～5月21日(日)

10:00-17:00(入館は16:30)水曜休館

〒595-0025 泉大津市旭町 22-45 テクスピア大阪 1F

◆桃山学院大学 学院史料展示コーナー

2017年5月24日(水)～6月27日(火)

9:00～17:00(入館は16:30)土・日・祝日閉室

〒594-1152 和泉市まなび野 1-1 桃山学院大学 聖ペテロ館 2階

◆泉穴師神社修理事業の概要

泉穴師神社の修理は戦後2回実施されました。昭和32～33年の修理は本社本殿の半解体工事と摂社春日社・住吉社の解体工事、昭和54年の修理は本社本殿屋根の全面葺替を行っています。今回の修理は、本社本殿が前回の修理から35年、摂社春日社および住吉社が56年ぶりの実施となりました。

工事は主に檜皮葺屋根の葺き替えと塗装の塗り替えです。修理の原因は屋根檜皮材の腐朽、塗装・彩色面の褪色・剥離の他、壁板のずれ、組物の緩み、銹金物の欠落などがあげられます。これらは主に経年劣化によるものが多く、建造物の維持・保存のためには定期的な修理が欠かせません。

工事実施にあたっては、まず建物周囲に足場・素屋根を設置しました。屋根修理では、軒先廻りの野地板の破損修理、檜皮葺き替え、屋根上の鬼板、千木、勝男木等破損部分の修理を実施しました。塗装の塗り直しでは、褪色した柱や梶股、組み物等部材について、昭和32～33年修理完了時の状態に可能な限り近い復元彩色を実施しました。本殿の板絵・扉絵については、特に屋外に面した部分で劣化が著しい状況でしたが、過去に撮影された写真等を参考に復元し、記録保存のため図面を作成しました。



主催 / 泉大津市教育委員会 桃山学院大学 泉大津市文化財保護委員会

協力 / 宗教法人泉穴師神社

お問い合わせ 泉大津市教育委員会生涯学習課 大阪府泉大津市東雲町 9-12 TEL0725-33-1131(代表)